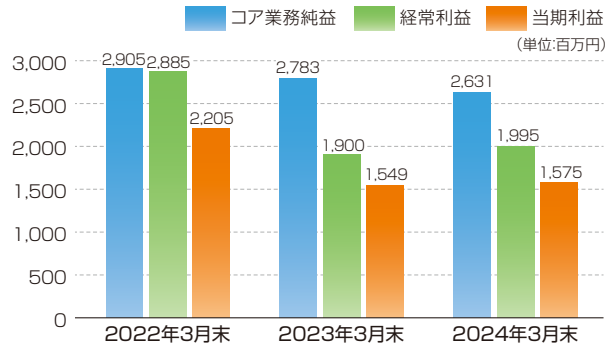


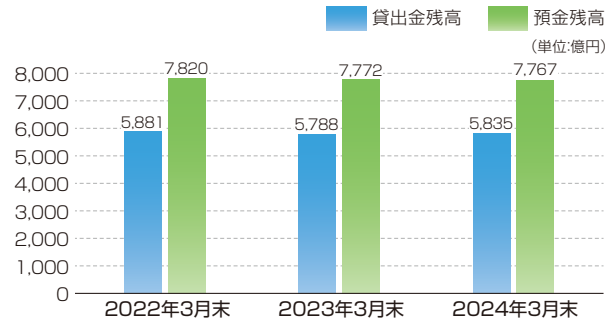
## 業績ハイライト(単体)

2024年3月期

### コア業務純益・経常利益・当期利益

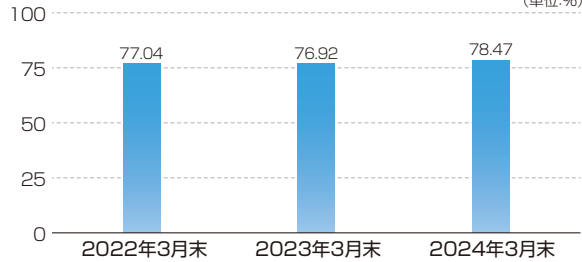


### 貸出金残高・預金残高



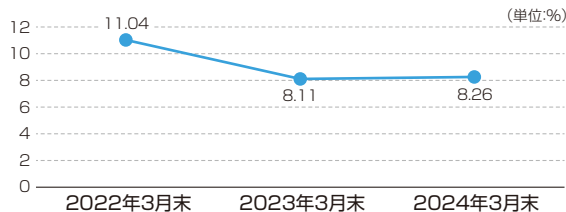
### コアOHR

(単位:%)



### 自己資本比率

(単位:%)



## 当行の概要

(2024年3月末現在)

名称 株式会社 南日本銀行  
本店所在地 鹿児島県鹿児島市山下町1番1号  
創業 1913(大正2)年9月4日  
資本金 133億51百万円  
店舗数 本支店64カ店  
(本支店61、出張所3)  
※ランチ・イン・ランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実質店舗数59カ店  
従業員数 854名  
(嘱託・パート・出向者含む)



## グループ会社

なんぎんリース株式会社 リース業務  
株式会社なんぎんキャピタル 投資事業組合及び投資事業有限責任組合の財産の運営、管理等  
南九州サービス株式会社 現金等の輸送・警備業務

## 株式情報

### 株式のご案内

|                 |  |
|-----------------|--|
| 上場証券取引所         | 福岡証券取引所(証券コード:8554)  |
| 事業年度            | 4月1日から翌年3月31日まで  |
| 剰余金の配当基準日       | 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)   |
| 定時株主総会          | 毎年6月下旬   |
| 単元株式数           | 100株   |
| 公示方法            | 電子公告により、当行ホームページ( <a href="https://nangin.jp">https://nangin.jp</a> )に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由により公告することができない場合は、日本経済新聞及び鹿児島市において発行する南日本新聞に掲載して行います。 |
| 株主名簿管理人<事務取扱場所> | 〒100-8241<br>東京都千代田区丸の内一丁目3番3号<br>みずほ信託銀行 株式会社 本店証券代行部   |
| 郵送物送付先          | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4<br>みずほ信託銀行証券代行部  |
| お問い合わせ先         | 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)<br>受付時間 平日9時~17時(土・日・祝日除く)  |

### 株主優待制度

当行では、株主の皆さまへの日頃のご支援に感謝するとともに、より多くの皆さまに中長期的に当行株式を保有していただくことを目的とし、「株主優待制度」を設け、「株主優遇定期預金」を取扱っております。

|                                     | 対象となる株主さま  | 内容   |
|-------------------------------------|--|--|
| 株主優遇定期預金<br>※「株主優遇定期預金ご優待券」が必要となります | 毎年3月31日現在で、当行株式を100株以上保有されている株主ご本人さま(個人・法人)<br>※保有株式数100株以上1,000株未満の方は、優待券を1枚、1,000株以上の方は2枚贈呈します | 金利:店頭揭示表示<br>金利+0.3%<br>金額:優待券1枚につき、10万円以上500万円以下<br>期間:1年 |



2024年6月発行 南日本銀行 総合企画部  
〒892-8611 鹿児島市山下町1番1号  
電話(099)226-1111(代)  
ホームページ <https://nangin.jp>



# MINI DISCLOSURE

# 2024



## 南日本銀行ミニディスクロージャー誌

〈第116期営業のご報告〉  
2023年4月1日~2024年3月31日

話せるところ 頼れるところ  
南日本銀行



取締役頭取  
田中 暁爾

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

私ども南日本銀行グループは、取引先事業者に対して迅速な資金繰り支援を行うとともに、WIN-WINネット業務（新販路開拓支援業務）を中心とした各種支援により、厳しい環境にある事業者及び個人のお客さまにしっかりと寄り添い、地域経済の回復・活性化に貢献できるよう取組んでおります。

また、2023年度から第1次中期経営計画「インテグリティある組織への変革」をスタートしました。本中期経営計画期間中に目指す姿は、「地域・お取引先の課題解決ニーズに応え、安定的な収益基盤を確保するとともに、当行の持続可能なビジネスモデルを一層進展させること」です。将来の成長に向けた大胆な構造改革を行いながら、「自発的に考えて行動できる人材」を育成し、より強い組織への変革に取組んでまいります。

引き続き、『地域に責任を持つ“真の金融機関”』として地域の課題解決への取組みを進め、持続可能な社会の実現を目指してまいりますので、今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024年6月

## 創業110周年記念事業について

当行は、2023年9月4日に創業110周年を迎えたことを記念し、『110周年記念事業』を実施しました。



創業地・霧島市に対する企業版ふるさと納税



本店社屋の夜間ライトアップ



燃ゆる感動かごしま国体かごしま大会への協賛

## なんぎんインフォメーション

### サステナビリティへの取組み

当行グループは、「南日本銀行グループSDGs宣言」を制定し、地域とともに持続的に成長していくことを目指し取組んでいます。

また、気候変動がお客さまや当行グループに与える影響を的確に把握するとともに、気候変動に関する有用な情報をステークホルダーの皆さまに提供することを目的とし、2023年5月に「TCFD提言への賛同」を表明しています。



### 「Nearly ZEB」認証の始良支店をリニューアルオープン

2024年2月19日、始良支店をリニューアルオープンしました。

新店舗は、SDGsの観点より、日射遮蔽効果を高める複層ガラスの配置や、太陽光発電設備・高効率空調設備などを採用し、環境に配慮した店舗とすることで、「Nearly ZEB」及び「BELS最高ランク(5つ星)」の認証を取得しました。また、災害時等における電力対策として「V2H」設備を設置するなど、店舗設備を充実させ、お客さまにより快適にご利用いただける環境を整えた次世代型の店舗となります。



### WIN-WINネット業務（新販路開拓支援コンサルティング業務） 売上付与累計金額100億円達成

2024年3月末で、WIN-WINネット業務の売上付与金額（当行がWIN-WINネット契約先へ売上を紹介し付与した売上金額）が、本業務開始（2011年10月）以降、累計で100億円を突破しました。

【WIN-WIN契約先数】 830先

※2024年3月末現在



【売上付与累計金額】 10,093百万円

【コンサル案件累計件数】 8,733件

【うちコンサル案件成約累計件数】 3,606件

※2011年業務開始以降の累計実績

### キャッシュレス決済アプリ“Payどん”事業への参画

当行、鹿児島銀行ならびに鹿児島相互信用金庫は、“Payどん”を活用したキャッシュレス事業について、共同で準備を進め、2023年10月16日より、三行庫で事業を開始しました。あわせて、更なる地域のキャッシュレス化の促進に向けて、2024年3月18日より鹿児島信用金庫も同事業に参加しました。



地元四行庫が協力して本事業に取組むことで、キャッシュレスの一段の普及とともに地域内における資金循環を促進し、地域の更なる経済活性化に取組んでいきます。

### 第1次中期経営計画について

#### 本中期経営計画の概要

本計画では、取り巻く経営環境などを踏まえた重要課題に対し、重点戦略として以下の5項目を掲げ、「対話」と「インテグリティ」をドライバとした役員員参画型で取組むことで、「当行のあるべき姿」の具現化を図ってまいります。

|      |                     |                 |
|------|---------------------|-----------------|
| 重要課題 | 公的資金完済後のビジネスモデル構築   | 人事・育成・評価制度の見直し  |
|      | 当行としてのデジタルとリアルの最適融合 | 収益・コスト構造改革      |
|      | マーケットインの発想の更なる浸透・深化 | SDGs達成に向けた取組み支援 |

|                     |   |           |            |
|---------------------|---|-----------|------------|
| 計画名称                | 第1次中期経営計画「インテグリティある組織への変革」  |           |            |
| 計画期間                | 2023年4月～2026年3月(3年間)  |           |            |
| 目指す姿                | 地域・お取引先の課題解決ニーズに応え、安定的な収益基盤を確保するとともに、当行の持続可能なビジネスモデルを一層進展させる。   |           |            |
| 本計画の位置づけ・基本方針       | 2023年9月に創業110周年を迎えるにあたり、当行および従業員の判断軸を共有して様々な変化に対応していくために、パーパスを2023年1月に制定しました。次の創業120周年を見据えた変革ステージとして、制定したパーパスを軸に、公的資金完済後の当行の持続可能なビジネスモデルの土台作りや、将来の成長に向けた大胆な構造改革を行いながら、「自発的に考えて行動できる人材」を増やし、組織を一段と強くしていく3年間とします。 |           |            |
| 重点戦略・基本戦略           | 重点戦略  | 基本戦略      |            |
|                     | 1 中小規模事業者向け専門の金融機関としてのビジネスモデル構築   | 事業者向け戦略   | 営業戦略       |
|                     | 2 経営戦略と人材戦略の融合による人的資本経営の実現  | デジタル・事務戦略 | SDGs・ESG戦略 |
|                     | 3 人事・育成・評価制度の見直し  | 人材戦略      | 営業戦略       |
|                     | 4 組織改革・店舗戦略による重点分野への経営資源再配置   | 組織・店舗戦略   | デジタル・事務戦略  |
| 5 業務改革によるコスト圧縮と適正投資 | コスト構造改革戦略   | デジタル・事務戦略 |            |

中期経営計画についての詳しい内容は、  
当行HPにてご覧いただけます

